



2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」



事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 つくば市立並木小学校 】

1 実践テーマ	Ⅲ・Ⅴ
2 実施対象者 (学年・人数)	全校児童 401名 (1年 57名, 2年 58名, 3年 65名, 4年 71名, 5年 68名, 6年 82名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① <u>教科名</u> (特別活動) ② <u>行事名</u> (パラリンピアンのお話を聞こう) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	パラリンピアン体験を含めた講演を聞いたり、実演を見たりして、パラリンピアンへの生き方に触れ、パラリンピックや障害者スポーツへの理解を深める。 児童が生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
5 取組内容	(1) パラリンピアンによる講演会 本講演会では、シドニーパラリンピックのアーチェリー競技で、団体4位入賞の実績を誇る飯島寿一選手を講師として招聘した。 飯島選手からは、自身の障害についてのことや、リハビリがきっかけでアーチェリーと出会ったことなどをお話していただいた。また、パラリンピックという大会がどのようなものなのか、国の代表として戦うことがどれだけ素晴らしいことなのか、応援メッセージの書かれた横断幕や国旗とともに丁寧にお話していただいた。  

	<p>(2) 6年生による体験 飯島選手が実際に使用しているアーチェリーの用具をお借りして、体験活動を行った。弓・矢に実際に触れ、どのような仕組みで矢が飛んでいくのか詳しく教えていただいた。「真ん中に当てるには、同じ動作を繰り返せばいい。でも、これが一番難しい。」と、矢を射る上での心構えについても伝えていただいた。</p> 
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> • オリンピックやパラリンピックについての興味・関心が高まった。 • 豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育むきっかけとなった。 • パラリンピアンの方の生き方に触れ、障害の有無に関わらず、一人一人が夢や希望をもち、その実現に向かって努力を続けていくことが大切であると感じることができた。 • 児童の感想（6年生） 「飯島選手のお話を聞いて、オリンピックだけでなくパラリンピックを観るのも楽しみになった。」 「自分の障害を受け止めて、自分を活かす運動をするというのが、とても素晴らしいと思った。」 「何でもプラスに考えることが大切だと学んだので、私もそのような人になりたいと思った。」 
<p>7 実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 茨城県出身（鉾田市）の選手を招いたことで、児童がパラスポーツを身近に感じ、応援する気持ちを持つことができるようにした。 • シドニー大会で実際に掲げられた横断幕やメッセージ入りの日の丸、飯島選手が使用しているアーチェリー用具を体育館に掲示したことで、視覚的に児童のオリンピック・パラリンピックについての興味・関心を高められるようにした。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 講演会は全校児童が参加したが、体験活動は時間の都合上、6年生のみの実施となった。複数回、講師を招いた授業を行うことができればより充実した活動になると感じた。 • 単発的な行事にならないように、体育や他教科の中でオリンピック・パラリンピックについて取り上げるなど、教育活動として位置付けていかなければならないと感じた。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 「I'm POSSIBLE」やオリンピック・パラリンピックの映像資料などを積極的に活用して、より深い学びにつなげることができるようになりたい。